いお勤のもう鼬で作き可な関い式。 箒の魅式と広いきの依 飛び出してくる。本当さりを食らい、御お通りへ尻棚を警 箒を構えていた古主お、淵でて筆を助り뒄こす。 「向する人汁も一 稼いごやないホー」 「お客ちん?」 3 を睨んだ。店主は頭を掻いている。 「すみません。でも、こいつが勝手に店の中へ入り込んで 買ったばかりの揚げ物の無事に安堵しながら、俺は店主 俺は店主の指さす先に目をやった。転がっていた丸いも ネコだって王様を見ることができる 御お節く。語しそうごコネコな番を眺めていれば、渋々、 「落ち着わって、変むっさたのある描述って言いさんこう 「それぞ、その爺さん3人間3ならさいこて疎ん3のゆう」

のは素早く立ち上がり、脱兎のごとく逃げていく。 「あれ? お客さん。ご存じありませんか? あれはコネ

小さな後姿は、夕暮れの道を見る間に遠ざかっていた。

口

御お針撃の構えを見かるロネロの恵を掌で軒ちえる。

ネコな、懇命に強を張り回していた。

がサダメ』だから駄目だって」

「お爺ちゃんとずっと一緒にいたいって頼んだけど、『旅

正確に覚えていなかった。

題を描く下ろした。

間になることを望んだ猫が変成するものらしい。

自然保護団体の質疑応答事例によれば、コネコビトは人

·······願い事。······したかな?」

満腹になり、眠気のさしていたコネコは、自分の発言を

シ宗字 かけだ」

の拳が無んでくる。しささん拳を負さい、動払軸い去。

「コラー きょっと待て! 一発でたくちんだ」

者が必要な立場にも拘らず、単独で生活している事実だ。

コネコの話は不明点が多い。だが、一番の問題は、

、保護

「……考えたんだが、この団体に行ってみたらどうだ?

御おジーン欠の尻ポヤッイを黙った。 小銭を燃菜屋の古

主コ支はい、白い帰断跳登コ人でお慰的财を受け取る。

「ホティフライン割割が、魚のフライからはらはなんな」

特売のフをスパ心を奪むれつつ、商出街の出先を聴いて

テーブルの角を挟んで向かい合っていた飾の襲いコネコ

食べさせてくれるらしいぞ」

自然保護団体のホームページが表示された画面をコネコ

「は爺さやふね、七ハヤジやおい!」

これにお首を預むていた。

猫の大バナジュ

に見せる。

「と回とことをひてと」

以劉以懿と一重の文章が、引きの観手な解珠に歐多まか

ころいてがえず共行をひ合の創作者のように対しているに

ンテンツです。

「それ美味しい?」

《い楽な》

急に声をかけられ、俺は飛び上がりそうになった。 住宅街に差しかかり、街灯が点っているだけの道である。

る考で位とこる見多耕王フセガビを

「……その爺さん猫。 雛又ひゃないから

り継いで二時間くらいか」

コネコは頭を振った。

「神奈川。……江の島のほうだな。ここからだと電車を乗

「ごはん! ここ、どこ? 遠いの?」

目の前の不可思鸞な尘き耐

一笑习分しおいところがか、

シストに変化していた。

の存在は撤続としている。

振り向いた俺の目は、不可思議な造形を捉えている。

しまったらしい。騒きた制いむ、年書り離れならず、コネ

変わらなければ、同行を許可してくれるのだそうだ。

「駄目。お爺ちゃんが戻って来たら、一緒に行くから」

年寄り猫と春に再会する約束だと言う。コネコの決心が

が、料理酒には充分である。ありがく貰い受け、家路を急 た俺にワインを一本進呈してくれた。投げ売りのワインだ 悪いと思ったのだろう。店主は、ビールを半ダース買っ

る考でなどこる見を禁王てっきにそ

都なら変気するらしいな、ヤロサス却不明。 校見的いお、 五、六七の人間の子掛い肖似。

散と人間を合はちておもでな主き感。

【インゴネロ】

番近しいものは、二足歩行に擬人化した動物のぬいぐるみ

だろうか。その生き物は俺の持っている袋を凝視していた。

'……食べる?」 空腹を表す音が辺りへ響く。

尋ねる俺に頷いていた。

るもががみるこる見

ま禁まてい計にネ

地だった。そこへ父が家を建てる。定年を機に両親は郊外 へ移り、勤務先の利便で俺だけが、この家に残された。 「唐揚げ。もっと食べたい」 祖父が土地を取得した当時、この辺りは野原の広がる僻 俺の家は一軒家である。

ネコだって王様を見ることができる

こそにお年書の誰と一緒い固下状の姉本を負べ、頭って 「-~はこいしいはくこす」

袋を下きずり、材近の公園へ向からず。校別用の水鼎以 年書り離れ二本虫で立さ、踊りぎす。果浸いとられてい るにネロコ浸付き、題コワわ式袋を叩い式。見る間以袋は 踏まに アパオ 雨水 / 袋を 段 り 込む。 金融 3 袋 幻 鋤 ら み **働られ、良い匂いのする大いものがおくちん出てくる。** 「三から、東しいので・ 楽しいので・」 答いか乳縁の誰いなっか。

にネロお骸浸和悪いと思いが、苦し的な声がある。 は願いむやなら。なけらい願い事を聞いてあむる」

さ。踏みつけて強んでいさところ抗議の声が聞こえてくる。 持って一 行かんでくれ。 むしを水のあるところへ連れ 击払鈴休ら発しアいる。鷺ハオロネロお飛び貼らす。 「いっこのもよ。 蘇いから踏むのは上してくば、 囚りを見回してき継ぎいなんこた。 しいことはしいんじゃし 出

※王様の絵が上になります

http://www.oritoyo.com/

き、サラダと惣菜を皿へ盛って出した

「そうすると、つまりこういう事か? 昨夜は普通の猫

コネコの話は、こうである。

容で可と記載されている。箸が使えなかったためパンを焼 た。自然保護団体の広報には、人間の子供と同様の食事内 °¥1≇1

「お茶も飲めよ。喉に詰まるだろ。あと野菜」

皿に惣菜を取り分けてやり、俺は携帯端末の情報を追っ

『コネコビト』というのは、ここ数年の間に現れた新種の

るきつならこる見る新王てっちにも これにお茶色の袋位置に通び声いるのを見らせ

く庭の一角でネコジャラシが風に揺れていた。 「春まで半年は先だぞ。本当に迎えにくるんだろうな?」 俺は空の皿を片しつつ、ため息を吐く。台所の窓から覗 おしまい

8 AND THE STATE OF T **CARO**

谷折り 暖

(c) 2014 楠樹

折る

切る

山折り